

身長145センチ、バスト96センチ

Jカップ女子大生ハナ(20)

高校生の頃から好きだった水泳部の先輩と大学で付き合うことになったものの、奥手な彼氏に鬱憤が溜まっていたハナちゃん。今回満を持して当レーベルからAVデビュー♡

性欲が強いのは両親譲りだという彼女。今回のデビュー作でがっつり中出し、両穴デビューもしちゃいます。

妊娠覚悟の生中だし!  
欲求不満のロリ巨乳娘



妊娠したら、彼氏の子ってことにするッス

企画制作 グラムサイト  
https://www.glamsight.jp/  
JPEG/PDF | COLOR | 2400 x 1800px  
UA-001 | 105min | 800YEN



●このCG集は18歳未満への販売・貸し出しを禁じます。  
●このCG集の最新複製、及びネット上へのUPは禁止します。  
●この作品には18歳未満の人物は出演していません。



105 minutes  
税込価格 ¥800  
UZAKI-01



本中

Jカップ女子大生ハナAVデビュー

彼氏に満足できなくて...  
Jカップ女子大生  
ハナ(20)

NTR



AVデビュー

J  
カップ女子大生ハナAVデビュー



緊張していますか？

「あー、はい。まあ、その……してま、ス」



ハナちゃんは大学生なんだよね？  
彼氏とかいないの？

「えっ、あつ……いるツスよ」



彼氏がいるのに、今回応募して  
くれたんだ？

「それがツスね、ウチの彼氏見た目に反して  
かなーりへたれでして。  
エッチする前にいつも鼻血吹いて倒れちゃうし、  
それでいつまでたっても先に進まないというか、  
流石に私も欲求不満というか……」



随分鬱憤が溜まってたみたいだね(笑)

「ああ、いや……その」



いやいや、いいんだよ。  
それじゃあ早速上を脱いで  
みようか？

「えっ、あ……はい」



おおー、おっぱい大きいね。何カップ？

「Jカップッス」







アミン



「でっか！ え？ ABCDEFGHI…」  
すっごい……っで、めん。驚きすぎて声でちゃった。  
見た目小学生っぽいのにギヤップが凄いなあ」

「小学生…」





ほむっ

「……はむ」  
「こっ、ツスか？」

「そろそろパクっと啜えてみようか」



んちゅ

ちゅ  
ちゅ  
ちゅ

「んちゅ、ちゅぶ、ぢゅぽぽ」

「いいねー。そう、もっと舌先使って……」

「あっ、いい。」

「亀頭に絡みつく感じ、いらぬ……いらぬ……」

「んふう、ぢゅぽ、ぢゅるる……」

んふう

ぢゅぽ  
ぢゅるる





ん〜

クマのミナ

ん〜

「あっ、イク。口に出すよ、く〜ん〜」

「はあ、はあ……そのまま飲んでくれる？」

「んっ、んん……ゴクン」

ゴクン





「よし、オッケー。  
それじゃあカメラに向かってピースしてみようか。  
はい、チーズ」

「んふう」



あっ

「はい、それじゃあ  
チンポの上に跨って」

「ヒューヒューッスか？」

「そうそう。」

「それじゃあ……ふっふ」

アハハ



「んんー!」

んん

んんん

んんん

んんん

「ちっちゃいからかな。」

「膣内狭くってめっちゃ気持ちいいわ」

「あーん、んふう………んひいー!」



「あー、やっべ。  
精子が迫り上がってきた。  
このまま膣内に出すぞ！」

10  
14  
21

「あつ、えっ……でも、中は……」

「何？ 何か言った？」

「あつ、いや、中は……赤ちゃんできゅさっ」

10  
14  
21

10  
14  
21

あら

「うるせえ！  
イクぞ……うっうー」

「ええ？  
あん……ふああああッ♡」

アッ  
アッ  
アッ



「はあ、はあ、はあ………」

「……ふう、ゴメンね。中には出さない予定だったけど、  
つい勢い余っちゃって」

「あつ、いや……だ、大丈夫ッス。気持ちよかったんで……」

ドク  
ドク



「ア、アツツスか？」

「そうそう、そうやって擦って……  
気持ちいいよ、ハナちゃん」

キハ



「彼氏にはこんなことしないの？」

「彼氏とはまず一緒に風呂入らないツスねー。  
あの人、今でもエッチの時は部屋を暗くする  
タイプなんで」

「ぐえー、もったいねー」



「あー、イキそう……」

「マジツスか？」

私、男の人が射精するところ見たことないんすよね！  
いいツスよ、イッて。ほらほら、ほらほらー！

アハハ

グズグズ

グズグズ







「ふん、ふん」

「ひゃーん」

「にじり、すごい出たツスね。  
熱くて、すごい臭い……♡」

「いいね……お風呂出て続き、しよつか」

にじり



「えっと、んっと……こんな感じでいいツスか？」

「そうそう、上手だね。彼氏にもしてるの？」

「えっ、いや、したことないツス」

4ニッ



「マジで？ こんな巨乳の彼女がいて、  
パイズリしてもらわないとか」

「そっでしょ？」

私も陰でこっそり練習してたのに、  
刺激が強いつかって中々成果を披露する  
機会がなくて」

「随分淡泊な彼氏なんだね」

「淡泊ってか、へたれなんすよ。  
もしものことがあったらいけないからって、  
絶対ナマではしないですし」

あ

あ



「男としては立派だけどね」

「そりゃ、私のことを考えてくれてるのは  
わかるんスよ。  
でも、女にも性欲があるってことが  
わかってないんスよね」



「ああ、なるほど……って、んっ。イキそう」

「えっ、あっ、イツちやうんスか？」

「うん……あっ、イク！」



「あはあ、熱いッス」

「……ふう、気持ちよかったよ、ハナちゃん。  
このまま続けたいから、お尻こっちに向けて、  
跨ってくれるかな？」

アハハハ





んぐや

んぶ、んぶ、ちゅんぐんぐん

「ちつきも思ったけど、舐めるのも上手いよね。  
フェラも練習してたの？」



「なのになんかへたれなんだ」

「んん、そうツスね。ゴージャとか使って。  
真一く……彼氏のチンコ、すごく大きいんで」

ちゅちゅ!!  
ちゅちゅ!!

ちゅちゅ



「なるほどね、うっ……っ」

「はむ……ぢゆる、んちゅう、そうなんスよ。  
だからこそ、余計に悶々としちゃうというか……」

ぢゅぽっ

ん



「それじゃあ彼氏に比べたら小さいかもしれないけど、  
今からまたこのチンポでズボズボしてあげるからね」

「……………」



「あつ、あつ、あん♡」

「あー、やべ。ハナちゃんのマニ」超気持ちいいー」

「わ、私も気持ちいいッス」

「さて、じゃあそんなハナちゃんにサプライズ！」

「ふえ？」

パン

パン

パン

パン



「じゃーん、ハナちゃん携帯から  
彼氏くん電話しまーすー!」

「えっ、ちよっ!?!」

「ぶっよ、あった?」

「ああ、ありました。この『せんぱい』ってやつですよね?」

「ダメッス、ダメえ!」

んん

「ポチっとな」

んん

んん

『もしもし、宇崎？ どうした？』

『い、いや……その、今何してるかなって』

『ああ、悪い。今卒論やってるところでな』

『そ、そう、ツスよね。すみません、忙しいところ』

『いや、俺もお前の声を聞きたいと思っていたところだから』

パン

パン

パン

「……♡」

『それより、何か音しないか？  
パンパンって』

「あ、ああ……ちよつと今、外にいますて。  
誰か……何かヤツてるみたいなんスけど、  
な、なんスかね？」

『いや、わからないならいいんだけどさ。ところで……』

「す、すみません！ 忙しいところ電話してしまつて。  
ちよつと用事があったこと思い出しまして、イク、  
イかなきゃいけないんで、またかけ直します！」

『お、おう……いや、いいんだけどさ』

パン

パン

パン





「ちよ、流石にこれは無理……」

=1/2 =1/2

ぐ  
っ  
っ

「大丈夫大丈夫！  
女の子の穴はどこも男が突っ込むために  
あるんだから」

「そんなこと……んひい！」

ズボッ



「オマシヨとお尻の両方にオチンポがあ……っ！」

「それじゃあ皆で動いてー」

「あっ、あっ、あっ……んはあ！」



「ダメダメ、これお腹の中で擦れて……  
頭がおかしくなるう！」

「余裕なくなってきたね。口調変わってるよ」

「あっ、んっ、くひいー！」





「ふあああああああああ……んんん！」

ドク  
ドク

ドク



「はあ、はあ、はあ……んん」

「はい、じゃあカメラに向かってピースして」

く

ほお、

「ああ、オマンコからもお尻の穴からも  
ザーメンが溢れて……♡」

「うん、いい画が撮れたよ。  
めっちゃエッチだった。ハナちゃんも満足したろ？」

ポロッ

あ





「ん、まあ、その……ハイ」

「あはは。にしてもすっぱー出したな。  
これ本当に妊娠しちゃったかも」

ぷる  
ぷる

「えへへ、まあ、そのときは彼氏の子つてことにするツス」

「うわー、悪女だね(笑)」

あはっ

「満足させてくれない先輩が悪いんですし、最近卒論で忙しいからって構ってくれなくて寂しかったんすよ」

「うーわ。自分の彼女だったら超うぜー(笑)」

「……てことで、終了です。またねー、バイバーイ」



「……さ、さんか」

お、い

エロエロ

「んふふ、どうツスが真一くん。  
久しぶりのオマンコは♡」

「ほ、本当に大丈夫なのか？  
お腹に影響あるんじゃないか……」

「安定期だから大丈夫だって言ったじゃないツスか。心配なら自分で動かすんで、  
ジツとしててくださいよ」

「あ、ああ……」



あーっ

「ああ、うざ……花、俺もう……っ！」

「ふえ？」

「うーっうーっ」

「えっ、あっ、ちよ……  
イツちやったんスカ？」



「マジ真二くん早漏なんスけど」

「うぐ………すまん」

「まあでも復活はやいんで。

このまま続けますよ？

（この子が産まれたら次こそ真二くんの  
赤ちゃん孕みたいし）」

んん

「なんか言ったか？」

「いーえ、なんでもないッス」























































































































